

## 先進校に学ぶキャリア教育の実践

# 高知をよくする課題探究学習を核に 学校生活全体で「気付く・考える・表現する」

### — 高知南高校 (高知・県立) —

高校生活に目的意識をもたせようと始めたキャリア教育で、県内の高校を牽引する高知南高校。地域の課題解決に挑む「マネジメント学習」を核としてさらなる進化に取り組むなか、数年後に市内の高校と統合することが決定。節目にある同校のキャリア教育をレポートします。

取材・文／藤崎雅子

#### 実践のKeyword

中高一貫教育 学校再編 課題探究学習 授業改善  
学習・生活記録ノート 教員研修 国際理解教育

#### 学校がひとつになるために キャリア教育を導入

高知県立高知南高校は、普通科と国際科を設置する併設型中高一貫教育校だ。現在、キャリア教育と国際理解教育の2本柱による、6年間の系統的な「高知南版グローバル教育」に取り組んでいる。国際科のある同校が国際理解教育に力を入れるようになったのは自然な流れで、国際科を中心に大学や県の国際交流課との連携によるワークショップや留学生との交流などのプログラムを整備してきた。一方、実施8年目を迎えるキャリア教育は、どのような経緯で取り組み始め、同校の重要な柱となったのだろうか。まずはキャリア教育導入の経緯からひも解いていきたい。

キャリア教育黎明期にあった2007年度、同校は文部科学省の「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究」の指定校に手をあげた。学校評価アンケートをとると、ほとんどの生徒は「学校が楽しい」と感じているが、「学校生活に目標をもっている」は半数ほど。もつと生徒の目的意識を高め、高校生活を充実させたい。それがキャリア教育導入の大きな理由だ。

また、背景には02年度の併設中学設置による混乱もある。中高一貫教育が思うように軌道に乗らず、試行錯誤で教員の疲弊感が募るなか、学校をひとつに束ねる何かが必要だった。当時教頭として在

籍していた廣瀬法民（のりたみ）副校長はこう振り返る。

「スーパー・イングリッシュランゲージ・ハイスクールやサイエンス・パートナーシップ・プログラムの事業に取り組んでいましたが、特定の教科に限定した動きになりました。学校を変えるには、みんなでできるものでないといけない。そこで、全教員がかかわれるキャリア教育を導入し、目線を合わせていこうと考えました」

しかし、当時、学校現場ではまだキャリア教育の理解が進んでいない時期で、同校も例外ではなかった。そこで、外部の有識者によるキャリアサポート委員会を設置。その助言を受けながら、自尊感情の育成、規範意識の確立、学習活動の活性化を目標に掲げ、総合的な学習の時間（以下「総学」）を中心に展開する体験的なキャリア教育プログラム「サザン・プロジェクト」をスタートさせた。

「総学」の中学校課程は仲間づくりから始まり、職場体験学習などの職業理解、国際理解に取り組み。高校課程では職業別ガイダンス、課題探究学習「マネジメント学習」、進路実現に向けた講座や小論文・面接指導などを実施する。

こうしたキャリア教育の実践が軌道に乗り、学力面を中心とした中学校の導入もあって、数年で校内は落ち着きをとり戻したという。

「本当に学校がぐんぐん変わっていきました。やらされ感ではなく、『みんなで挑戦を楽しもうよ』という空気があり、教員が



### School Data

普通科・国際科/1987年設立  
 /生徒数615人(男子263人・女子352人)  
 進路状況(2015年3月末実績) 大学78人・短大8人  
 専門学校77人・就職12人・その他14人  
 高知県高知市棧橋通6-2-1  
 TEL 088-831-2811  
 URL http://www.kochiminami.jp/

### Outline

地域の生徒数増加に応じて1987年に開校。ピーク時は全学年定員数1400人だったが、現在は720人。2002年より中学校を併設。これまでスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(06~08年度)、高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究(07~09年度)、キャリア教育に係る中核的な時間の在り方に関する研究(13~15年度)など、さまざまな事業に取り組んできた。11年度にキャリア教育優良校として文部科学大臣表彰。

図2 6年間のキャリア教育の流れイメージ

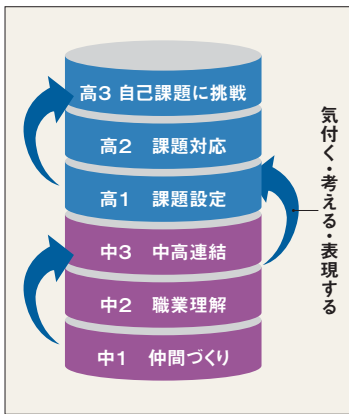


図1 高知南高校でつけさせたい10の力

南高校でつけさせたい10の力		基礎的・汎用的能力との対応
1	ルールやマナーを守る	人間関係形成・社会形成能力
2	協力・協働する力	
3	自己の役割の理解	自己理解・自己管理能力
4	主体的に行動する力	
5	忍耐力	課題対応能力
6	本質の理解	
7	計画立案	
8	実行する力	キャリアプランニング能力
9	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解	
10	将来設計	

共通の目的意識をもって取り組んだことがよかったですよ(廣瀬副校長)

生徒が主体となって取り組む1年間の「マネジメント学習」

サザン・プロジェクトの目玉は2学年の「マネジメント学習」。約1年間かけて、3~4人のグループで地元高知の課題の解決策を探っていく。各クラスに担任を含む教員2人がアドバイザーとして入るが、すべて生徒が主体となって進める。

図3 2015年度キャリア教育研究計画(高校)

	体験的な学習を核とする取り組み等	体験的な学習を強化する取り組み	教員のスキルアップ
1学年	<b>MMM学習(南マナメント学習に向けて)</b> ■目的: マネジメント学習のための「課題を設定する力」をつける ■主な内容 ・職業別ガイダンス ・卒業生講話、進路講演 ・夏休みに3日間程度の体験活動を実施(事前・事後学習あり)	<b>自己発展学習(全教科)</b> ■目的: 言語活動の基本を身に付け、その場に応じた活用ができるようにさせる ■主な内容 ・作文やプレゼンテーションの機会を設定 ・主体的・協働的に学ぶ学習(アクティブラーニング)を活用した授業改善	<b>教員研修</b> ■目的: 各取り組みを効果的に「つなげる」ためのスキルアップを図る ■スキル ・生徒の変化に気づく力 ・適切な指導・助言を行うスキル ・教科の学びを総合的な学習の時間や学校行事につなげる力 ■主な内容 ・教員個人としての力量を高めるため~外部講師を招聘した校内研修、教員間での研究協議や情報交換 ・組織的な取り組みで質を高めていくため~研究授業を活用した教科会や校内研修、教員同士が相互に教え合う学年会
2学年	<b>マネジメント学習(課題探究学習)</b> ■目的: マネジメント学習で「課題に対応する力」をつける ■マネジメント学習の主な流れ オリエンテーション→テーマ設定・課題探究(アンケート、インタビューなど)→具体的な改善プランまとめ→発表	<b>進取ノートの活用(HR活動)</b> ■目的: 生徒一人ひとりの変容をとらえ、個に応じた適切な指導・助言を行う ■主な内容 日々の学習やホームルーム活動の記録をつけることで、継続的な取り組みの重要性を体験させたり、面談で活用し目標設定や具体的な行動につなげる	
3学年	<b>進路選択</b> ■目的: 積み上げた土台の上に「自己課題に挑戦する力」をつける ■主な内容 ・キャリアアップ講座 ・小論文、面接指導等	<b>一体感や達成感を高める(学校行事)</b> ■目的: 自らアイデンティティを確立させる ■主な内容 体育祭や文化祭において、中高生全員で取り組むことのできる企画を生徒会が中心になって立案、実行するなど	

メンバーの話し合いで、「路面電車による地域活性化」や「南海地震対策」といったテーマを設定。校外でのアンケート調査や地域イベントなどの活動を行って、集まった情報やわかったことから解決策を提言としてまとめる。クラス内プレゼンテーションを経て、代表グループによる発表会を開催。マネジメント大賞ほか3賞を決める。発表会は中学校3年~高校1年も聴取し、次に自分たちはどう取り組むかイメージを膨らませる。

この過程で難しいのは、課題意識をど

うテーマや活動につなげていくか。ちょっとした興味から始め、調査・研究を進めるうちに軌道修正を繰り返すグループも多い。例えば、最初はドクターヘリに興味をもったグループが、健康寿命の重要性に目が向き、県の食材で健康に良い食事を広げようと、高知龍馬マラソンの大会でつみれ汁をふるまう活動を行うという具合だ。企画部長の小川(あやこ)先生は、それも学習のうちという。

「途中で軌道修正すると、生徒は失敗したかと思いがちですが、気づいて修正して



8月に実施したキャリア教育校内研修では、南中学校・南高校でつきたい力について議論



「総学」で使用するオリジナルテキストと、生活と学習を記録する「進取ノート」



マネジメント学習の活動のひとつ。スーパーのイベントに参加して野菜の大切さを劇で子どもたちに訴えたり、日本らしい衣装を着て外国人観光客向けガイドツアーを行ったり、街に出て活動



いくプロセスが大事。その変わり目に教員が立ち会うことで、気づきの大切さを伝え、一段上の挑戦ができるように後押ししています(小川先生)

こうして生徒主体で活動した経験は、さまざまな力や意欲につながっている。昨年度、2学年の担任として生徒の支援にあたった関草路先生はこう話す。

「途中で採めたり失敗しながら、意見や成果を発信したいというエネルギーが大きくなっていきました。おとなしい生徒たちも企業や団体との交渉や発表の経験を積むなかで、「コミュニケーション能力や積極性が身についた」と感じます」

また、「マネジメント学習」のテーマを高卒卒業後も追いつける生徒も。地域の

伝統的な日曜日(街頭市)の活性化を提案した生徒が、大学進学後も仲間を募って活動を継続するなど広がっている。

**新たな研究事業をテコに  
プログラムを再構築中**

「マネジメント学習」を中心としたプロ

CloseUp | 現在進行中のプロジェクト学習

テーマ「高知のお野菜召し上がれ♪」

◎ テーマ設定のきっかけは？

「『食』をテーマにしようと考えてみて、高知県民は野菜の摂取不足ということを発見したのが始まりです。野菜の摂取量を増やすことができれば、健康だけでなく、地産地消にも効果があるのではないかと思います」(永澤さん)

◎ 秋までにどんな活動をした？

「一番大きかったのは、近隣のスーパーの食育の日イベントに参加させてもらったことです。やりたいことの企画書を作ってお店に提案し、当日は自作のポスターを展示したり、野菜を使ったメニューを考えて作って試食してもらったりして、旬の野菜を多くの方に食べてもらえるよう活動しました」(伊藤さん)

◎ 大変だったことは？

「イベントでは最初、お客さんに素通りにされてばかりでショックでした。それで、休憩時間にお店の方と一緒に作戦を練って、もっと大きい声で笑顔でアピールする、試食のお盆をお客さんのところまで持っていく、小さな子には『このマフィンの中に何の野菜が入っているかわかる?』とクイズ形式にするなどの工夫をしたら、ちゃんと立ち止まってくれるようになりました」(河原さん)

◎ うれしかったことは？

「スーパーで活動した時、私たちの展示を見てお客さんが野菜を買って『今日ちゃんと食べるからね』と声をかけてくださいました。自分たちのメッセージが伝わったんだと、すごくうれしかったです」(永森さん)



前列左から2学年の伊藤文乃さん、河原愛美さん、永森由佳さん、永澤萌さん、後列左からクラス担任の久武郁先生、2学年主任の田中卓史先生



スーパーに提出した企画書

テーマ「行くぜよ! 高校生と土佐の城下町ツアー」

◎ テーマ設定のきっかけは？

「まず最初に考えたのは、『高知県をグローバルに売り出そう』というざっくりしたテーマでした。そこから、みんなで観光マップや観光パンフレットなどいろいろな案を出して、最終的には10月に高知港に入航する客船の外国人客に向けた、無料のガイドツアーをしようと考えています」(岩崎さん)

◎ メンバーの3人だけで企画・実施するのは？

「ツアーを企画する段階では、外国人観光客のための環境整備を行っている高知おせっかい協会さんや、まちづくりや地域おこしに取り組む地元企業、高知県国際交流協会の方にお話を聞いて、ツアー内容やガイド方法の参考にしました。また当日は、外国人のガイド経験が豊富な高知おせっかい協会さんにサポートをお願いしています」(岩崎さん)

◎ ここまで進めてきた感想は？

「高知県民なのに、高知の良さを全然わかっていなかったなど。最初、高知県のよいところを聞かれて、『高知城、はりまや橋、イオン』ぐらいしか言えなかったのですが、あまり知られていない清流などの魅力を再発見しました」(梅下さん)

「実は最初、自分が何をしたいのかわからなかったんです。でも、リーダーに分担を割り振ってもらって、『しっかりやらなくては』という責任感が出てきて、『これは誰かがやってくれるだろう』ではいけない、みんなで話し合って決めることが大事な、と思うようになりました」(新井さん)



前列左から2学年の岩崎真夕さん、新井ゆなさん、梅下麗さん。客船が寄港した際は、このパネルで外国人観光客に呼びかける

「気付く・考える・表現する」を授業を含む教育全体へ

では、各領域では具体的にどのような改善を進めているのだろうか。まず、「体験的な学習を核とする取り組み」の領域では、各学年で育む力を明確にし、取り組み内容の系統性や関連性を整理し直した。1学年で身につけさせたい力は

「図6」。

再構築のポイントには、「総学」を中心に展開してきた「気付く・考える・表現する」という学びのプロセスを教育活動全体に広げる点だ。キャリア教育の領域を「総学」での「体験的な学習を核とする取り組み」、教科学習やホームルーム活動、学校行事での「体験的な学習を強化する取り組み」、そうした各取り組みを効果的に実施するための「教員のスキルアップ」の3つに整理して取り組んでいる(図6)。

グラムが軌道に乗ってからも、同校はいくつかの研究指定の機会を利用して常に改善を続けてきた。教員が入れ替わるなか、「現状維持を目指しては必ず質が落ちていく」と廣瀬副校長。13年度からは文部科学省の「キャリア教育に係る中核的な時間の在り方に関する研究(新名称)」の指定校に。現在、基礎的・汎用的能力にも対応する同校独自の「つけさせたい10の力」を設定し、その育成に必要な6年間のキャリア教育の再構築に取り組んでいる最中だ(図1-2)。



3学年担任  
関 草路先生



企画部長  
小川 章子先生



教頭  
宮地 敏朗先生



副校長  
廣瀬 法民先生



校長  
谷岡 博志先生

図4 2015年度キャリア教育に係る主な校内研修

時期	研修名	対象者	研修内容の概要
4月	面接講習会	高3団教員 進路指導部員	教員の面接全般にわたるスキルアップ
6月	面接講習会	全教職員	教員の面接全般にわたるスキルアップ
	キャリア教育 校内研修1	全教職員	講演テーマ：学習自己管理ノートの有効活用について 講師：筑波大学教授 藤田晃之氏
7月	探究型 学習研修会	本校教員 高知県内 他校教員	テーマ：「知識構成型ジグソー法」の授業手法について 内容：研究授業、研究協議 講師：高知県教育センター指導主事
8月	キャリア教育 校内研修2	全教職員	本校の「キャリア教育」について報告、説明／ワークショップ(各学年別)
	高知南高校 公開講座	本校希望教員 高知県内 他校教員	小論文講座 講演テーマ：基礎的・汎用的な国語力育成～表現の能力育成のための方策～ 講師：「志桜塾」主宰 長谷 剛氏
10月	キャリアカウンセリング 研修会1	希望教員	傾聴スキル向上研修会
11月	キャリア教育 講演会	全教職員・生徒 保護者	「吉田沙保里と熱く語ろう!」 講師：吉田沙保里氏
	グローバル教育	全教職員	内容：公開授業、分科会、全体会 講演テーマ：21世紀に求められる資質・能力の育成を目指して 講師：国立教育政策研究所総括研究官 白水始氏
	キャリアカウンセリング 研修会2	希望教員	傾聴スキル向上研修会
12月	キャリア教育校内研修3	全教職員	講師：リクルートキャリアガイダンス編集長
2月	授業法改善研修	全教職員	テーマ：アクティブラーニング

「課題設定」。夏休みにオープンキャンパスや職場体験など各自が選んだ体験活動を3日間程度行う体験学習「MMM学習(南マネジメント学習に向けて)」を新たに始めるなど、地域の課題に目を向けさせる。それを引き継ぐ2学年は「課題対応」の育成に焦点を絞り、「マネジメント学習」をより効果的に実践することを目指す。3学年では「自己課題に挑戦」を掲げ、それまでの課題探究活動の経験も参考にしながら、今度は卒業後取り組みたい自己課題を設定して進んでいく。

次に、「体験的な学習を強化する取り

組み」の領域について。その具体策の1つめは、全教科の授業で「気付く・考える・表現する」を意識し、思考力の強化に取り組む(同校は「自己発展学習」と呼ぶ)。知識構成型ジグソー法による協調学習や、タブレットの活用など新しい取り組みが始まっている。

2つめのホームルームでは、学習・生活の記録をとる「進取ノート」を活用。生徒は学年および学期ごとの目標設定やその振り返り、毎日の予定や学習内容と時間を記録。定期的な担任が確認し、生徒の変わりの見取りや面談等の材料などにする。

3つめの学校行事では、数年後の学校

統合をふまえ、中高全体での一体感や達成感を重視。生徒が自分自身や母校に誇りをもてるよう、生徒全員による「1000人写真」の撮影も始めた。

そして、「教員のスキルアップ」の領域では、教員が生徒の変化に気づく力や、適切な指導・助言を行うスキル、教科の学びを体験的な学習や学校行事につなげる力の育成に努める。今年度は大学教授や塾講師の講演会、全教職員によるワークショップなど、10回を超える多彩な校内研修を計画している(図4)。

こうした多岐にわたる領域の取り組みが進むなか、生徒の動きも活発になってきた。同校では体育祭と文化祭を隔年で交互に実施している。今年度は文化祭の年だったが、生徒会の発案で、体育祭も同時開催することになった。

「生徒会が中心となって教員や保護者などに働きかけ、生徒総会でも議論。そうして開催にこぎつけた体育祭では、中高全員が一体となっておおいに盛り上がりました(宮地敏朗教頭)」

### 学校の看板を外しても 息つき続ける教育を目指して

現在も進化を続ける同校だが、2021年度に生徒募集停止、2023年度までに同じ市内にある高知西高校と統合して新しい中高一貫校になる。

その理由はいくつもある。まず、少子化に伴う生徒数減少への対応。少子化

が他地域より進んでいる高知県においては、同校のような都市部で成果をあげる学校でも統廃合の対象となる。また、海岸に近い同校は、南海トラフ巨大地震発生時に津波被害への懸念も大きい。そして、英語科がありスーパーグローバルハイスクールの指定を受けている高知西高校と統合することで、より先進的なグローバル教育を目指せることなどだ。

学校の統合が発表されたのは2014年2月。同校が新たな研究事業に取り組み始めた矢先のことで、関係者は大きく動揺したという。しかし、今の同校にネガティブな雰囲気は感じられない。目の前の生徒たちの力を伸ばすことに加え、統合後の学校でも核となるキャリア教育とグローバル教育のモデル作りという、新たなミッションも加わった。谷岡博志校長はこう意欲を語る。

「まずは本校の特色である『高知南版グローバル教育』により、社会が求める力を生徒にしっかりと身につけさせる教育を遂行していく。それによって、南高の看板がなくなつたあとも、本校のDNAが高知県の教育のどこかに息づいていたらと思います」

キャリア教育推進役である小川先生が、今、意識して呼びかけている言葉は「先生方が楽しんでくださいな」。かつて中高一貫教育に苦戦していた時、「みんな楽しんで」とキャリア教育への挑戦を始めた。廣瀬副校長は「今また、楽しむ気持ちでやっていきたい」という。